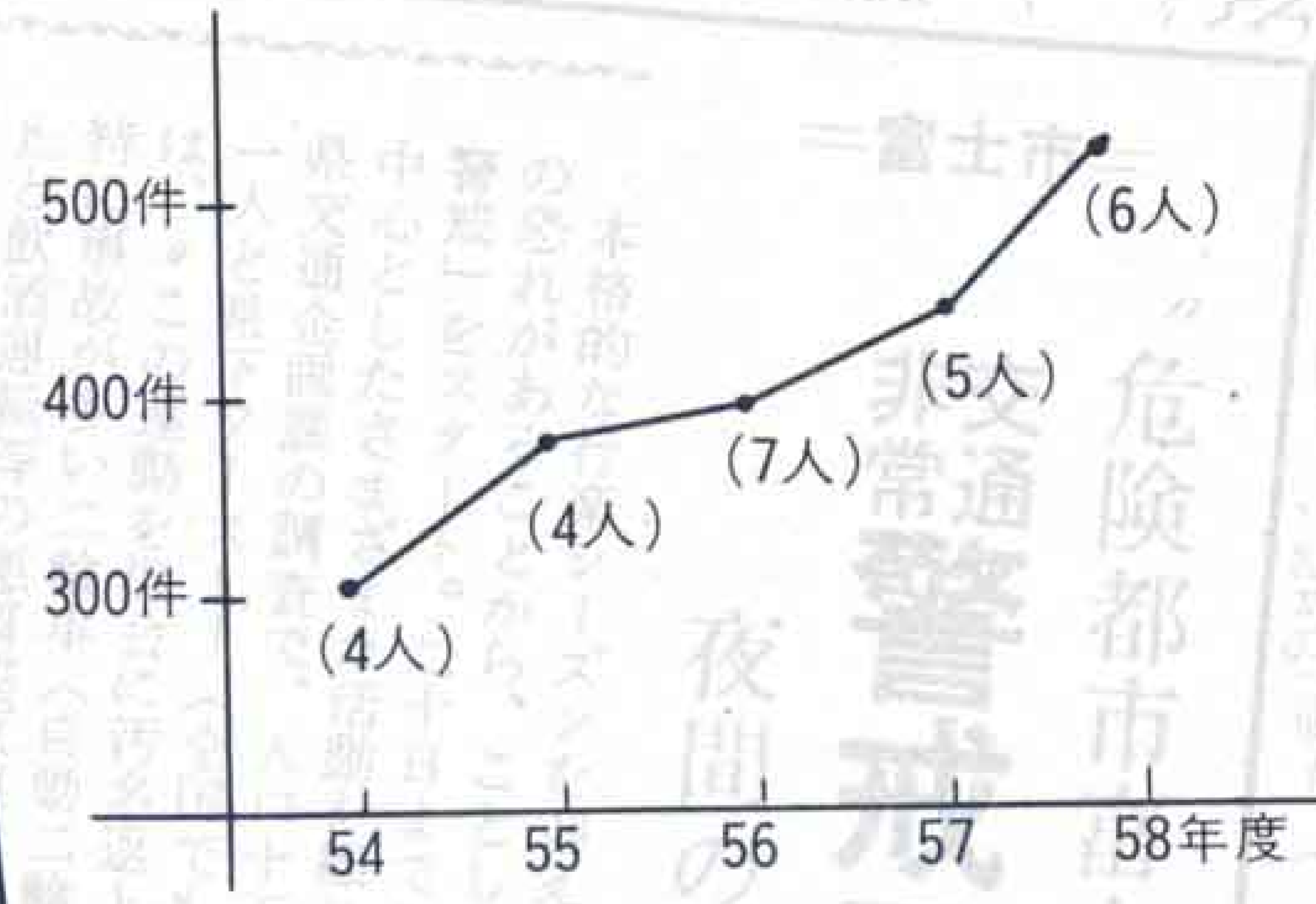


市立大淵第一小学校の児童1,400人は、実物の大型トラックと人形を使った交通安全教室で、トラックの左折時による巻き込み事故を学びました。上の写真①～③は同じ場所から見たトラックの内輪差で、トラックが左折するとき、前輪では相当の距離があるのに、後輪ではひかれてしまった人形を見て児童たちは、驚きの声をあげました。

市内の原付及び自動二輪車の事故件数(死亡者)年度別推移 (生活安全課調べ)



気軽に でもその事

原付及び自動二輪車などの交通事故が年々ふえています。

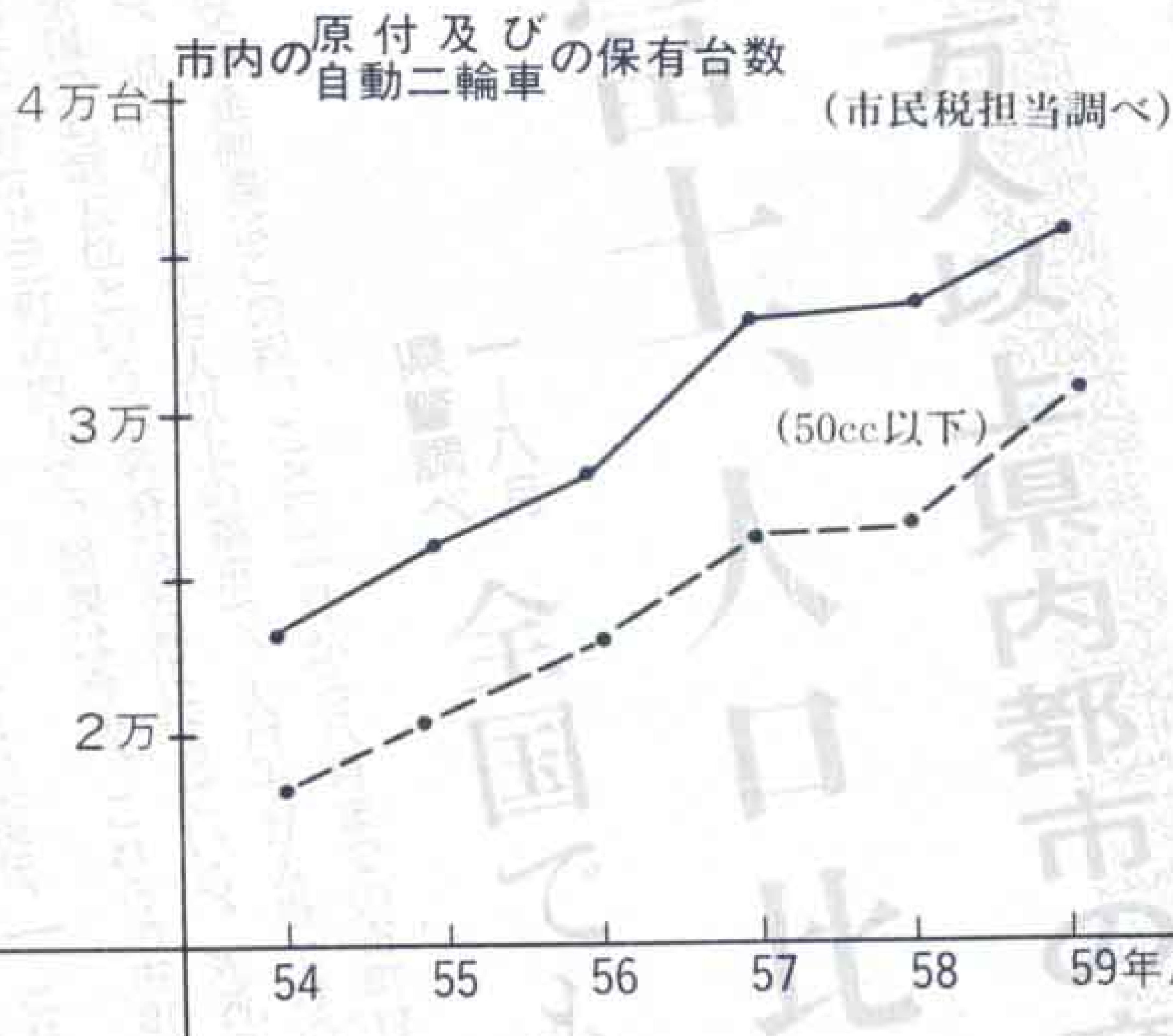
まず、上のグラフをご覧ください。

このグラフは、昭和54年から昨年までの原付及び自動二輪車の事故件数(死亡者数)の推移を表わしたものです。これらによる事故件数は、昭和54年には313件だったものが、昭和58年には517件と大幅にふえており、この中で特に目立つのが、50cc以下のいわゆる小型バイクといわれるものの事故です。

小型バイクだけの事故件数を見ると、昭和54年に217件あったものが、昭和58年になると355件と急激な増加をみえています。

このことは、当然のことながら小型バイクの普及と関連しているといえます。3ページ上のグラフをご覧ください。これは、市内における原付及び自動二輪車の保有台数の推移を表わしたものです。

その中で特にいえることは、50cc以下の小型バイクの大



乗れるバイク

故はうなぎのぼり

幅な増加がみられることです。昭和54年度には1万8,000台だったのに対して、昭和59年度には2万8,000台と1万台もふえています。

「小さくて手軽に乗れる」という便利さから、小型バイクの利用者が年々ふえ、最近ではそのファッション性が受けて主婦や若い女性にも広く利用されています。反面、利用者がふえるにつれ、バイクにかかわる事故もふえているわけです。

小さなバイクだからといって、事故が小さいとは限りません。人身事故がたくさん起きており、特に女性の事故が目立っています。

さらに小型バイクについては、免許証が簡単に取れるということから、経験の浅いドライバーがふえ、事故につながっているとともいえます。

多い交差点での出会い頭事故

では、これらのバイクの事故形態についてふれてみましょう。

富士警察署の調べによると、最も

多いのが交差点での一時停止を怠った出会い頭の事故です。この場合、信号機のないいわゆる中、小規模での交差点が目立っています。信号機のない交差点では必ず一時停止をし、安全確認をしましょう。また、交差点で右折するときは、直進する対向車にも気をつけましょう。

次に多いのが自宅の敷地や会社の敷地などの、いわゆる道路外から道路へ出たときの事故です。この場合もやはり、安全確認を怠ったために起きてしまったというものです。

次が右、左折時における事故です。これらの事故は、いずれも一時停止や安全確認を怠ったために起きていますので、十分注意しましょう。

また、事故を起こしたときにヘルメットをかぶっていなかったため、転倒した際道路に頭をぶつけて大きな事故につながっているというケースも多くあります。小型バイクといえども、乗るときには必ずヘルメット

をかぶる習慣をつけましょう。

また、スピードの出し過ぎは大きな事故につながります。

小型バイクの制限速度は30キロです。制限速度を守りましょう。

交通マナーのレベルアップを

事故防止について、富士警察署の^{あらかわ}新川交通課長は次のように語っています。「今日、交通マナーの低下は事実です。その中で、『私ぐらいは…』と悪い風潮をまねてはいけません。

交通マナーを守るということは、他人に迷惑をかけないことであり、譲り合いの精神を持つことです。

これらを守ることによって当然事故も減るし、交通マナーのレベルアップにもなります。ドライバーひとりひとりの心がけが大切ですな…」

年末年始の交通安全運動

12月11日(火)～1月10日(木)

- ◎ 飲酒・暴走運転を絶滅しよう
- ◎ 正しい歩行を励行しよう
- ◎ シートベルト着用を習慣づけよう